

平和がいちばん

2015年4月15日
第94号

平和で豊かな枚方を
市民みんなでつくる会



福祉・介護職33年 松田 久子



報酬半減実行中 手塚たかひろ

市議会をかえよう！ 市民のために仕事をする議会に

市議会選挙が行われます。4月19日に告示され26日に投開票されます。「市民の会」は二人の候補を擁立し、当選をめざします。

前回の選挙で「会」推薦の手塚たかひろ議員を市議会に送りました。この4年間、ホットで詳細なたくさんの情報を得ることができました。「会」はその情報を市民の皆さんに発信してきました。そして行動を呼びかけてきました。市民とともに運動をすすめる議員が二人になれば、これまでの数倍の仕事をすることができます。

－市長の独善をチェックする議会に－

市議会の役割は、市長の仕事をチェックすることと、市民の意見を市政運営に活かすことです。現在の市議会はその仕事をしていません。その象徴は香里ヶ丘中央公園に計画されている「美術館」問題です。この計画は市民に知らされず議論も経ないまま、市長と寄付者の二人だけで決められました。市議会はその「不正常」を追認しました。豊かな緑が失われ、毎年7千万円の支出が必

要です。市長の独善をチェックできない市議会は、市政を監視する一番大切な仕事をしていません。

私たちはこれからも、市民の運動を着実に積み重ね、議会での活発な論戦と結んで、市民自治がいきづく町一枚方をめざします。

－議員報酬半減・政務活動費ゼロ－

議員報酬は年間1084万円、請求すれば月7万円の政務活動費が支給されます。高額な報酬の上に「お手盛り」の政務活動費が上乘せされています。「会」と手塚議員は「報酬半減・政活費ゼロ」を主張し実行してきました。選挙時に「身を切る改革」などの文言を並べても、実行しなければ市民を裏切ることです。「半減・ゼロ」を実現すれば年間2億円の財源ができます。このお金を子育てや介護に悩む市民のために使いましょう。

－命と健康を守る市政に－

市民の命と健康を何より大切にする町にします。国や府の指示待ちでは市民の命は守れません。戦争ができる国NO・原発再稼働NOを訴え続けます。そして全国の運動とスクラムを組みます。

こんにちは 平和が好き 人が好き 枚方が好き 松田 久子です

その10回目



枚方市議会議員選挙が迫っている。介護保険が、介護報酬の切り下げなど、この4月から大きく変えられる。いまこそ、福祉・介護の現場で33年働いてきた松田久子さんの出番だ。

1957年滋賀県彦根市生 滋賀大学教育学部卒 夫・子二人の四人家族で西田宮に住んでいます

Q. 枚方市住んで30年余りですが、枚方をどのような町だと思えますか？

仕事を続けながら、安心して子育てができた町でした。保育所の存在、とりわけ朝・夕の時間外保育や、病児保育はとても助かりました。小学校に上がっても、留守家庭児童会がすべての小学校にあり、安心して子どもを預けられる保育所や留守家庭児童会があることは、何よりもありがたい

ことです。しかし、不安定な雇用が増える中、保育料が高くて働けないという若いお母さんの声を聞きます。市民の声を謙虚に受け付け一時保育や病児保育、留守家庭児童会の利用しやすい料金設定など、きめ細かな施策が必要です。

Q. 枚方をどのような町にしていきたいですか？

「赤ちゃんからお年寄りまで安心して暮らせる町」にしたいです。介護保険制度になり、介護の問題は、市がかかわるのではなく民間の事業所に丸投げされてしまいました。行政だからこそできるネットワークを最大限、活用し支援を行うべきです。また、特養ホームの入所を待っている待機者1000名余りおられます。この解消が急がれます。

介護職場で働く職員の賃金は他の職種より10万円近く安いと言われていています。介護が必要な方

のサービスの向上には介護職員の待遇改善がかかせません。4月から介護報酬が引き下げられ、ますますサービスの低下や待遇の悪化が予想されます。このような国の動きには、枚方市として反対の声を上げて欲しいと思います。また枚方市として独自でできること、例えば、地域密着事業に位置付けられている小規模特養ホームの増設などは、大阪府に対して積極的に働きかけができると思います。もう一度、「福祉の町、枚方」をつくりたいです。

Q. 特に強く訴えたいことは何ですか？

「デイサービスに行きたいが、利用料金が高くて行けない」「坂が多くて買い物や通院に苦労している。コミュニティバスを走らせてほしい」などの声をよく聞きます。私は、無駄な出費をなくし、市民に必要なところ、生活に根ざしたところにお金を使う枚方市にしたいです。まず、市議

会議員が自らの報酬、年1100万円を半分にすること。また昨年からの問題になっている政務活動費は廃止し、それで節約した2億円を市民生活にまわす。それができる「市民感覚」をなくさない市議会に変えることが大切だと考えています。

ありがとうございました <インタビュー：おおた幸世>



・・・原稿を募集します・・・

『平和がいちばん』の号外、『憲法記念日 - 私はこう思う』を5月3日に発行します。毎年、市民の皆さんからの寄稿文で紙面を作っています。憲法破壊の具体的な動きが強まる昨今です。“熱い”思いを寄せていただきますようお願いします。

(寄稿などの問い合わせは「会」事務所まで 原稿締切4月30日)

手塚たかひろ 議員日誌

美術館建設の
問題点の追及
を続けています



議員報酬半減と
政務活動費受け取り拒否
を続けています

- 3月6日 3月市議会 6日総務、9日文教の各常任委員会が開かれた。今議会でも「図書館及び生涯学習市民センターへの指定管理者制度導入」に関する請願が出された。今回も紹介議員になった。審議では「同趣旨の請願名は以前に否決されたのに、なぜ今回も請願議員になったのか」と、市民の請願を紹介した私が悪いかのような質問が2人の議員からされた。指定管理者制度導入に多くの市民が納得できていないから、前回の請願者と異なった方たちが今回も声を上げた。この声に応えたと回答した。市民の請願権を保障するのは議員の仕事だ。この当たり前の立場を貫き通したい。
- 3月10日 厚生常任委員会 「国保料、介護保険料の引き下げを求める請願」「公費による低所得者の介護保険料軽減措置を国に求める請願」を審議。結果は賛成少数で否決されたが、「国保、介護保険は、国、市の負担と加入者の保険料で成り立っている。高齢化が進むなかで、医療や介護の費用は増える。市や国の財政負担は増やさず一方的に保険料を増やし、市民の負担増をもたらす今のやり方はおかしい。市や国の財政負担を増やし、市民負担の軽減を図るべき」と賛成討論を行った。
- 3月16日 本会議最終日 指定管理者制度導入反対の立場から請願に賛成討論を行う。「制度導入で、図書館の分館と生涯学習市民センターから市職員が一人もいなくなると、市民が市職員と共同で地域から市民活動をつくる場としての生涯学習市民センターが変質する。図書館の分館は、地域に最前線で住民と日常的に接し、地域住民のニーズを捉える場所、責任を持った市職員がいなくなると分館の役割を果たすことができなくなる。民間活力を導入すれば、どのように市民サービスが拡充するのか、市民活動を発展させることになるのか、市は説明ができていない」と強調した。
- 3月19日 美術館寄付申し出者大東氏 彼と市民が香里ヶ丘中央公園で対話。私は途中から聞いたが、「茶室や多目的室がない美術館なら造らない」「建て直す図書館と美術館は渡り廊下でつなぎ、大型バスが止まれる駐車場を現在の図書館の場所に造る」と、彼の構想を述べる。枚方市からも聞いてもない構想や、市が造らせないと明言した茶室の建設が寄附者の中では生きている。市の説明との食い違いもはなはだしい。このことだけでも美術館建設は再検討が必要だ。個人の趣味で作った美術館を市民に押し付け、管理運営費用を市民の税金で賄わせるやり方。このままでは必ず将来に大きな負担を残す。市長と寄附者のやり方に怒りを覚える。
- 3月20日 市長と業者の暴挙 朝8時頃から市職員7名と業者が周囲に高さ1.8mのバリケードを張り巡らした。急を聞いて駆けつけると、市民の抗議の声を聞かずに、市職員が「防衛」する中業者は黙々と作業を進めていた。市の報告では「利用者の安全確保と反対住民の説得のため市職員も立ち会った」と言っている。市民から業者の安全を守るために7名もの管理職が動員された。市は寄附者、業者の下請けか。ここまでして美術館建設を強行する背景には何か闇があるのではとも疑いたくなる。その後も市民の監視活動は続けられており、3月29日現在、準備工事は始まっていない。
- 3月26日 市議選の録画撮り 青年会議所主催の市議会議員選挙立候補予定者の意見表明の録画取りに参加。カメラを前にすると緊張した。3つのテーマでそれぞれ発言時間は1分。Q1. 枚方の魅力と強みは？ A. 子育てに配慮し、身近に豊かな自然がある町、それを支える市民の力。Q2. 枚方をどのような町にしたいか？ A. 結婚するなら枚方といわれる町に。そのために新婚世帯への家賃補助や空や家の斡旋、若者の働き続けられる町。Q3. そのためにどのような活動をするか？ A. 税金の無駄をなくす。政務活動費廃止・議員報酬半減。議会のすべての情報を公開し市民に開かれた議会に変える。ことなどを訴えた。
- 3月19日 3月分議員報酬より226,480円を大阪法務局に供託

私の住む杉妻（すぎのめ）地区の除染の住民説明会は昨年7月にあり、順にモニタリング・除染とすすんで、私の家にもあと1ヶ月くらいでようやく順番がまわってくると思います。モニタリングの数値は $0.4\mu\text{ Sv/h}$ くらいが多く、雨どいにあったドロは $3.0\mu\text{ Sv/h}$ くらいありました。除染にともなってフレコンバッグにつまった土が庭に山積みになり、その脇を子供たちが学校に通うという異様な光景を見慣れてしまった私がいいます。

幸い私の子供たちに今のところ甲状腺には異常は見られず元気に忙しい毎日を過ごしています。小学生の次男とは折にふれ放射能がたまりやすい場所やとりこみやすい食べ物、実際に小学校から学童保育所までHSF(*)で放射線量を計測した話をしたりします。しかし長男に「友達と放射能の話をするにはあるの?」と聞いたところ「全く無い!」という返事。年頃の子供は親からこういう話を特に嫌がるようで、本人のこれからの為にも、広くは日本の為にも伝えていきたいと思っているのにとジレンマを感じます。

学校の先生方とは、例えば運動会の時に外でご飯を食べるかどうかのアンケートや廃品回収などで時おり放射能の話題はでてきますが、こちらから話をしなければ先生からということはありません。次男の小学校は小人数で、私がPTAの本部役員をやっていることもあり、先生と顔を合わせることも多いのでざっくばらんに聞くこともあります。担任の先生は強風の際は外に出さない、校庭に腰を下ろさせないなどの注意や、授業中に放射能の豆知識などを話しているようです。副担任の先生は、自分の子供の高校の部活に「外

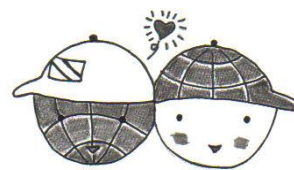
でやらないで欲しい」と要望を伝えたら、その部だけしばらくお休みになり、子供が先輩から文句を言われ、そして息子から責められたとのこと。色々あってほんとに大変な立場だったと思います。長男の中学校に申入れしたときには、校長先生は「周りの学校の様子を見て外に出すかどうかを決めます」と言われました。とてもがっかりして、この人に言っても無駄だと思ってしまいました。学童の先生とも少し話をしましたが、「どこまでの数値がいいのでしょうか」と、考えてもしょうがない、考えてもよくわからない、どこで判断していいのか悩むような返答でした。おそらくみんな内に抱え込んでいるのだと思います。ここで生きていくのにマヒしている、マヒさせなければ生きていけないのです。

3月14日、仙台での国連防災世界会議のパブリックフォーラムの一部に参加してきましたが、華々しすぎてあの時の大変さとギャップを感じて帰ってきました。あれから何も変わらず、ただ生きることに精一杯で、放射能とは一体何なのかもうわからなくなりつつあります。見えないだけに本当に難しい問題です。色々な情報をずい分取り入れた4年間。それはそれで疲れました。引き算をしたいと段々考えるようになりました。シンプルに軽やかに生きていきたい、何かにもどわされて生きていくのは、もうたくさんだと感じます。

(*) HSF—ホットスポットファインダー: GPS連動型の空間線量率自動記録システムで、放射線量が高いホットスポットを地図上で特定することができる

平和で豊かな枚方を市民みんなで作る会

共同代表 松本 健男 (弁護士)
 家高 憲三 (元教育長)
 黒田 薫 (平和都市枚方を考える市民の会)
 鈴木めぐみ (親子のリズム遊び講師)
 奥村 秀二 (弁護士)
 おおた幸世 (枚方市平和無防備条例を実現する会)
 事務局長 手塚 隆寛 (枚方市会議員)



「会」のシンボルマーク
 塔本賢一さん作

〒573-1197
 枚方市禁野本町
 1-5-15-106
 市民の広場“ひこばえ”
 TEL&Fax
 072-849-1545